

＜平成30年（2018年）度～平成32年（2020年）度 市長期目標＞ 「協議会の活性化に向けた仕組みを作る」

今年度の市協議会短期目標
・市協議会が取り組んだ主な活動（事実）

具体的に取り組んだ活動を通じて
判明してきた事柄・意見（解釈）

市協議会長期目標の達成に向けた
次年度の共通短期目標（解決策）

＜平成30年（2018年）度 市短期目標＞
「市と各区が連携して課題解決に向けて取り組む」

＜主な活動＞

全体会議

- ・構成員の見直し
- ・報告中心から、課題に関する協議を重視するよう変更。

連絡会

- ・これまで協議会で整理してきた課題を使用したワーク（3枚の葉っぱ）を実施。

部会

- 相談支援部会
 - ・「指定特定相談支援事業所向け計画相談支援の手引き」を作成。
- 人材育成部会
 - ・相談支援従事者のキャリアパス内容の検討、キャリアパスに基づくシラバスを作成。
- 精神障害者地域移行・定着支援部会
 - ・支援のすそ野を広げる取り組みを実施した。
 - ・医療機関と地域関係機関との意見交換会～顔の見える関係づくり、ピアサポーターとの協働をめざして～開催
 - ・パネルディスカッション「地域移行支援やってみてどうだったか（・・・？）」開催
 - ・川崎市内の社会資源を見る・知る・楽しむハッピーツアー実施
 - ・精神障害者の住まいと住まい方を考える「松本ハウスがやってきた！ヤーヤーヤー」開催

区協議会

- ・共通専門委員会（相談・児童）での協議
- ・課題提出

企画運営会議

- ・各区の課題を集約し全区の課題一覧を作成。（課題の可視化）市全体の課題傾向が見えてきた。
- ・学齢期の相談支援の課題等が明らかとなり、市協議会が「教育と福祉の連携」に向けた具体的な連携の取組検討を開始している。



長期目標の達成に向け、一定の成果があった。

- ・「区を超えて色々な人と話をしたことで、課題の見え方や解決の仕方にたくさんの発想があることに気付けた」
- ・「楽しく課題解決に向けた話ができた」
- ・「課題をテーマにした連絡会は継続してやってほしい」
- ・「自分たち（相談支援専門員）が提出している課題が、市協議会として集約され可視化されてきた。今後どのように解決されていくのか興味があるし、その解決のために一緒に活動していきたい」

…といった感想から、各区協議会構成員以外の機関や市民の参加もあり、課題への興味関心が予想以上にあることがわかった。

しかし、
課題解決の具体的な行動については、更なる検討・取組みが必要。

- ・可視化された課題をどうやって解決していくか？
- ・せっかく、各区にも共通専門委員会があるのだから、具体的な連携ができればよいのだが…。
- ・各区協議会同士、区と市が連携し具体的な課題解決の活動に取り組めなかったが、区協議会の取組みを聞いて、真似したい！やってみたい！事柄もあり、具体的な話を聞きに行く機会が持てず残念でならない。
- ・各区に地域性や取り組んできた事柄の経過があるけれど、最後には、一人ひとりの当事者の希望している暮らしを実現できるように地域課題を解決していく事が大切。市と区が同じ意識で課題解決に向けて、より具体的に活動していくべきだと考える。



- ・各区協議会の活動には、特徴があり、地域性に基づく区の実践やネットワークがある。（強み）市協議会は、各区協議会が整理している課題を共有し、連携しながら、市協議会（各区協議会も含め）として、横断的に課題解決に向けた取り組みを実施していく必要がある。
- ・市協議会長期目標の達成に向けて、市と区がこれまで以上に、より具体的な課題解決に向けた取り組みを実施し、改善しながら、協議会の活性化に向けた仕組みを作る必要がある。



＜平成31年（2019年）度
市短期目標＞

「地域のネットワークを強化し、課題解決に取り組む」